

おら保ほ知ってけろ

第1回 山形市楯山小学校区学童保育「たてやまっ子クラブ」

たてやまっ子クラブは楯山小学校の校舎1階余裕教室 2.5室を施設として利用し、開設しています。

10月現在、1～6年生の子どもたち79人(2支援)と常勤指導員6名・非常勤指導員2名・事務担当職員1名で切磋琢磨しながら毎日楽しく過ごしています。

数年間、コロナ禍によりクラブで行ってきた行事を中止していましたが、昨年度より徐々に十分な対策のもと復活をしています。特に保護者会主催の親子行事は、保護者会役員の皆さんが積極的な取り組みのおかげで楽しい交流のひとつが実現しています。

今年、10月14日(土)に地域を探検してまわるスタンプラリーを行いました。

まず、学校のグラウンドに隠されているボールを探し、その中のスタンプシートを探し出します。そのスタンプシートを持って地域探検に出発です。スタンプポイントは3か所、スタンプポイント

には指導員が待っています。親子で、スタンプをもらいながら楯山地区をめぐる歩くこと1時間、学校に戻ってきてゴールとなります。ゴールした順番に千本くじ引きを引き、楽しみました。

当日は、お天気にも恵まれ親子で楽しいひとときが過ごせたようです。また、保護者同士の交流もでき、子どもだけでなく保護者にとっても楽しいひとときとなったようです。

少しずつ日常が戻ってきていると実感しています。今後も保護者と指導員で話し合いながら楽しい行事を行っていききたいと思います。



第58回全国学童保育研究集会

11/4(土)パルテノン多摩

5(日)桜美林大学淵野辺キャンパス

全国から約4500名が集い、山形県からは232名(バスツアーは17名)が参加しました。今回はオンライン、対面での開催となり、全国の皆さんと学びの場を共有することが出来ました。全国研の感想は次回号で。

『福わたし』ありがとうございました

えびあらは子どもたちも好きなお菓子で大喜び。提供の仕方もそれぞれ個性があって、紙コップや紙皿に取り分けておやつにプラスしたり、一つの袋からみんなで分け合おうと縦割りグループで手袋をしてつかみ取りをしたり。フードバンクのお話をしたらみんな残さずに食べてくれました。ありがとうございました。

ほいく誌を読む会

居酒屋 HOIKUSI ござ〜れ

12/22(水)

19時30分 から(オンライン)

『特集:子どもと共に「性」を学ぶ』

多様性の今、性について子どもたちにどのように伝えるのか、一緒に考えてみませんか。

★詳しくは後ほどご案内致します。

是非、保護者の方も参加してみませんか？



山形県連協 NEWS

NO.39

2023年11月

山形県学童保育連絡協議会

住所:山形市三日町二丁目1-17

アパートメント Flat-C

TEL:023-674-9782 FAX:023-674-9783

メール:yamagata-kenren@bz04.plala.or.jp

学童保育も保育所と同じ「育ちの保障」としての位置づけを

山形県の学童保育は、入所児童数が16,894人、箇所数は342か所、416支援の単位(2023年5月1日現在)あります。支援の単位は毎年増え、2020年より25支援増えています。箇所数は、2021年まで毎年増えていましたが、2022年に1か所、2023年に2か所減少しています。これは、小学校の統廃合やコロナ禍の影響と合わせて、指導員不足から複数の学童保育を統一し一つにせざるを得ないことなども要因となっていると考えられます。

入所している児童数は、前年より451人増え、10年前より5,500人増えています。低学年の入所率は52.3%で、その中でも特に1年生の入所率は61%となっています。(山形県の学童保育入所率は全国1位!)施設について、適正規模にするための分離も進んでいますが、施設の確保が難しく入所児童数41人以上の施設が180か所(全体の4割)あります。学童保育の施設は、「生活の場」としての環境を整え基本的な生活を保障できるようにしなければなりません。子どもがのびのびと過ごせる床面積の確保や静養室の設置すら実現できていない施設も多くある現状です。

指導員は、子どもひとり一人への寄り添いと保育の充実のため十分な人員数が必要とされていますが、現在「指導員不足」が多くの学童保育で見られます。求人をしても応募がなく人材不足が深刻化しています。

指導員の年収は、150万円未満が44%、150万円～300万円が32%、300万円以上が24%(2023年5月実施調査より)と半数以上がワーキングプアといわれる処遇にとどまっています。処遇の改善を図るとともに専門職として指導員という職を広く理解してもらうことが必要とされています。

～子ども家庭庁の発足～

2022年6月15日に「子ども家庭庁設置法」が成立し、2023年4月に子ども政策を一元化して担う組織として「子ども家庭庁」が内閣府の外局として発足しました。

学童保育は、「成育部門」の「相談対応や情報提供の充実、全てのこどもの居場所づくり」の中に「放課後児童クラブ、児童館や青少年センター、こども食堂、学習支援の場等の様々な居場所づくり」として位置づけられています。現時点では、子ども全般の子育て施策を「居場所」というキーワードでくくっているだけで、具体的に学童保育施策が示されていません。

学童保育は、子どもにとって「居場所」という位置づけではなく、安心して安全に過ごせる継続的な「生活の場」であるとともに成長・発達のも場であり、人格形成をめざす一助となっています。学童保育も保育所と同じ「育ちの保障」という位置づけが必要です。

子ども家庭庁の今後の動きを注視しながらも、新たな子育て施策がかたちづくられる前に、上記のような学童保育の現状と当日者である保護者と指導員の願いを国や県・市町村に届け、現状の改善につなげていくことが必要とされています。

～安全計画の策定～

児童福祉法等の一部改正に伴い、「児童の安全確保」に関するものは、国が定める基準に従わなければならないことになりました。これにより2024年4月より学童保育においても、施設の安全に関する事項について計画を策定することが義務付けられます。(「安全計画」の策定)これを機に「成長過程にある子どもの遊びや危険をどのように考えるか」「子ども自身が自ら身を守る力をつけられるように適切な保護や援助を行う必要性」「安全を担保するための子ども集団の規模や職員体制」「事業の継続性や蓄積」「生活づくり」「施設の運営管理」等を確かめ、計画の中に盛り込んでいくことが大切です。また、この作成に際し行政と一緒に取り組み、学童保育の改善につなげていくことが重要です。

『第44回山形県学童保育研究集会』開催

2023年11月19日(日)、第44回山形県学童保育研究集会が山形テレサ及びZoomによるオンラインで開催します。

数年間、コロナ禍のためオンライン中心で行ってきましたが、今回は主管として山形市学童保育連絡協議会が中心となり、対面の分科会を増やし、準備を進めてきました。

今年5月から新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたことにより、感染防止のため行うことができなかった行事や活動等が再開し始める中、第44回山形県学童保育研究集会も従来の形に加えてコロナ禍で得た新しい形も取り込み一歩を踏み出したいと思えます。この研究集会が次の一歩につながることを願っています。



<参加申し込み状況>

	参加人数
全体会のみ	38人
第1分科会	123人
第2分科会	87人
第3分科会	57人
第4分科会	81人
第5分科会	27人
合計	413人

*たくさんの地域から参加します。

地域	参加数	地域	参加数
山形市	140人	酒田市	2人
天童市	88人	川西町	3人
寒河江市	13人	高畠町	4人
東根市	42人	最上町	1人
村山市	22人	河北町	11人
米沢市	35人	山形県外	4人
鶴岡市	48人		

*様々な立場の方

が参加します。	
立場	参加数
保護者	71人
運営者	12人
行政関係者	1人
指導員	325人
その他	4人

<研修内容の紹介>

	内容・講師等紹介
全体講演 [オンライン]	働きながらの子育てをともに支えあう 講師：末盛 慶 氏 (日本福祉大学 社会福祉学部)
第1分科会 [会場対面]	子どもの育ちをともに支える～家庭で、学童保育で～ 講師：高木 直 氏 (山形大学名誉教授・山形県連協顧問)
第2分科会 [オンライン]	学校現場の今と子どもたちに大切にしたいこと～学校で、学童保育で～ 講師：西田 佳 氏 (東京府稲城市立平尾小学校教諭)
第3分科会 [会場対面]	子どもの育ちに欠かせない「大人がつながる子育て」(交流) ～つながりあって子育てする大切さを話し合おう～ 助言&進行：山形県学童保育連絡協議会役員等
第4分科会 [オンライン]	学童保育の安全を考える 講師：高橋 誠 氏 (全国学童保育連絡協議会事務局長)
第5分科会 [オンライン]	学童保育の現状と課題 講師：千葉 智生 氏 (全国学童保育連絡協議会事務局次長) 佐藤 愛子 氏 (全国学童保育連絡協議会事務局次長)

令和5年度 県内各連絡協議会等の取り組み

山形市学童保育連絡協議会

山形市へ要望活動を行い、課題の改善につながるよう活動することをはじめ、研修会を開催し、保育内容の充実・運営等の改善につなげています。今年度は、『安全計画』について研修及び情報交流をし、来年度からの施行に備えています。また、学童保育間の交流を図る活動として、各学童保育にマジシャンを派遣し、子どもたちに楽しんでもらう活動を行っています。加盟学童保育26クラブと少数ですが、情報交流を活発に行い、助け合える関係を大切にしています。

鶴岡市学童保育連絡協議会

①5月28日(日)に「鶴岡市子どもまつり」に参加。親子で軽スポーツと工作を楽しもう！と企画し大盛況でした。②8月8日(月)「けん玉大会」を実施。けん玉の検定やもしかめ大会で交流しました。③10月17日(か)「鶴岡市との話し合い」を実施。学童保育の改善に向けて要望書を提出し、子育て推進課、学校教育課と話し合いを行いました。④10月27日(金)新任指導員研修会を実施。「指導員の仕事と役割」の講演後、分散会で悩み等を出し合い交流をしました。

寒河江市

寒河江市の全クラブが集まって、月に1回程度指導員会議を行っています。各クラブから出された希望をもとに内容を決め、担当も分担し、研修費は市から予算をもらっています。今年度は救命救急講習、ネットワークセキュリティについて、市との座談会、小グループに分かれての経験別研修などを行っています。ようやく、会場に集まったの研修ができるようになり、パート指導員も含め、たくさんの指導員に参加してもらっています。

米沢市学童保育連絡協議会

市内小学校14校(空白学区2)に支援の単位で32施設(運営母体19)の放課後児童クラブが設置されています。市連協には往時11クラブが加盟していましたが、数年前から退会が続き現在は4クラブとなりました。市長・教育長、子ども育成議員連盟、市担当課との懇談会や要望書提出等では、加盟外クラブと連携する機会ととらえ、声掛けしていますが、好反応は得られていません。小学校の統廃合に伴い、3校3クラブで統合運営の具体化が進んでいます。

一般社団法人天童市放課後児童クラブ連絡協議会 (旧天童市学童保育連絡協議会)

市内30クラブ(10運営団体：NPO1, 運営委員会9)入所児童数1379名
市内全クラブが市連協に加盟し、市連協は今年度法人化して組織強化を図った。
数年前から市内統一運営(合同運営)をめざして検討を重ねてきたが、なかなか進まない。複数クラブを運営する団体では、運営委員会からNPO法人に移行しつつある。統一(合同)運営になるまでの間であっても、市内の保育・運営条件を揃えるための基本方針やガイドラインを検討している。その流れで緊急時対応マニュアル(モデル)も市と市連協が協働して作成中。

村山市学童保育連絡協議会

村山市連協は公設民営の全10クラブが加盟しています(運営主体5つ)。
今年の研修会はリモート研修だけでなく、内容によって集いで開催しています。
新しい取り組みとして、毎年行っている新人研修に加え、施設長研修・中堅者研修を行いました。
10月に全指導員が実践レポートを提出し、12月・1月に実践検討会を予定しています。
昨年度から配慮が必要な児童について作業療法士さんに巡回指導に来て頂いています。
また、手作りおやつに取り組み、No.12のレシピ集を作成しました。(頒価100円)

東根市学童保育連絡協議会

市から「国の基準で委託料を支払っているが各クラブが課題を抱えていて細かいところまで手が届いていない。安定的に運営できるようにこのごも処遇を揃えられないか。」という提案を受け、市も巻き込んでこどものサービスの平準化に向けて検討を始めました。まずは、保護者の利用料金の統一・延長保育料金の時間単価の統一、開所時間を同じ時間帯に。という案を取り纏め、市連協の役員会で承認され、家庭の負担の平準化に向けて令和6年度から実施します。次に目指す項目の平準化もハードル高いですが引き続き取り組みます。

